

感想文

桜新町アーバンクリニック在宅医療部の見学を終えて

さくら訪問看護ステーション瀬田 理学療法士 生田誠子

見学当日の朝、扉を開けた瞬間、その事務所内の活気に驚きました。広いワンフロアの空間に、次々とスタッフの方が出勤されていましたが、一方ではタブレット端末の音声に合わせてトレーニングで汗を流されていました。しばらくすると、朝の申し送りが始まり、マイクがあちこち行き交う中、週末の患者報告や参加した学会報告、意見交換等が行われ、躍動感あふれる衝撃的なスタートでした。

往診の同行では、丁寧な診療はもちろんですが、医師や看護師が患者・家族、施設職員の話に、時間をかけて傾聴されている様子が印象的でした。時には、ケアプランにも目を通され、身体状況・病態の把握だけでなく、生活や医療・介護サービスにまで目を向けられていました。患者や家族、施設職員に丁寧に向き合われている姿勢は、私のイメージしていた往診風景とは異なるものでした。その後、移動中の車内で診療記録を音声にて録音。その録音データは、後に専門スタッフにより文字データに変換される為、カルテ記載等の作業はないとの事でした。診療後、医師と看護師で、治療や支援の方針、目的をそれぞれの立場で、熱く意見交換されおり、その強い連携に驚きました。

その日は、以前、勉強会でも取り上げられた「肺炎在宅治療クリニカルパス」を利用したケアの実際をみることができました。同行した医師は治療を開始した医師とは異なりましたが、パス表をもとに経過と処置を判断し、今後の治療の方向性を家族と一緒に検討・決定されていました。治療の為、家族による吸引処置等も行われている状況でしたが、治療経過と方針が明確に示され、家族に安堵の表情が見られた事が、非常に印象的でした。

見学を通して、より質の高い在宅医療を提供するため、①個々の医療従事者のスキルを高めること、②システム（クリニカルパス等）を構築することにより、同職種・多職種および他事業所間の連携を強めていくこと、③業務を整理し、効率化を図ること、④スタッフがより働きやすい現場を作ることに取り組む必要性を強く感じました。また、それを支える相談員・事務・ドライバーの方たちの力は非常に大きくエネルギーにあふれ、在宅医療体制を創り出している事に気づき、感銘を受けました。

最後に、このような貴重な機会を提供して頂きましたことに、心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に、地域ケアの一員として、またリハビリ専門職としてどのような役割を果たすことができるのかを模索し、精進してまいりたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆ですが、貴院の一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。